

会 議 録

会議の名称	第13回小金井市子ども・子育て会議	
事務局	子ども家庭部子育て支援課	
開催日時	平成31年3月5日(火) 19時から20時40分まで	
開催場所	小金井市役所第二庁舎8階 801会議室	
出席者	委員	会長 松田 恵示 委員 会長職務代理 倉持 清美 委員 委員 有馬 卓司 委員 北脇 理恵 委員 黒木 智道 委員 古源 美紀 委員 水津 由紀 委員 鈴木 隆行 委員 高橋 みさ子 委員 村上 洋介 委員 欠席委員 石川 健一 委員 小川 順弘 委員 窪田 美波 委員 曾根 基 委員 村上 邦仁子 委員
	事務局	子ども家庭部長 大澤 秀典 子育て支援課長 梶野 ひづる 子ども家庭支援センター等担当課長 秋葉 美苗子 子育て支援係長 福井 英雄 保育課長 高橋 弘樹 保育政策担当課長 平岡 良一 児童青少年課長 鈴木 剛
傍聴の可否	可・一部不可・不可	
傍聴者数	9人	
会議次第	1 開会 2 「のびゆくこどもプラン 小金井(小金井市子ども・子育て支援事業計画)」の進捗状況の点検・評価 3 次期計画策定に係るニーズ調査 4 「(仮称)のびゆくこどもプラン 小金井(第2期小金井市子ども・子育て支援事業計画)」策定スケジュール(案) 5 利用定員の設定 6 閉会	
発言内容・発言者名 (主な発言要旨)	別紙のとおり	
提出資料	資料35 ニーズ調査集計結果報告(案) 資料36 「(仮称)のびゆくこどもプラン 小金井(第2期小金井市子ども・子育て支援事業計画)」策定スケジュール(案) 資料37 特定教育・保育施設等の利用定員の設定	
その他		

第13回小金井市子ども・子育て会議 会議録

平成31年3月5日

開 会

○松田会長 それでは、改めまして、皆様方こんばんは。ただいまから、第13回小金井市子ども・子育て会議を開催させていただきます。

 本日は、石川委員、小川委員、窪田委員、村上邦仁子委員が所用のため欠席とのご連絡をいただいておりますので、報告させていただきます。また、前回、私が失礼いたしました、ほんとに申しわけございませんでした。

 それでは、早速ですけれども、次第に従って審議に入りたいと思います。

 まず、次第（2）「のびゆくこどもプラン 小金井（小金井市子ども・子育て支援事業計画）」の進捗状況の点検・評価でございます。

 点検・評価の報告書ですが、前回会議の審議内容をいただいた上で、事務局のほうでご修正いただきまして、本日の資料34という形で提出をいただいているところでございます。

 それでは、まず、事務局からご説明をお願いしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○子育て支援係長 資料34についてご説明いたします。

 計画の点検・評価結果の報告書につきましては、前回会議で資料32により素案をお示しし、ご審議いただいた後、追加でのご意見がないか委員の皆様には照会させていただきました。資料34は前回会議での審議内容と、追加でお出しいただいたご意見を踏まえ、資料32を修正したものとなります。資料34をごらんいただきますと、資料32からの変更箇所について、下線を引いております。

 まず1ページの（1）の①のところで、「幼稚園利用者のニーズを把握し」以下がございますが、ここは北脇委員からの追加意見です。前回会議でもこのあたりはご意見があったところですが、北脇委員から修正案をお出しいただきました。

 ②の「認定こども園の新設を推進すると同時に」以下ですが、ここは石川委員から追加意見をいただいたところです。もともとの表現として、「認定こども園に関して、最終的には積極的な取り組みを行っていただきたい」といった表現だったのですが、もう少し具体性のある表現がよいということで、この表現をご提案いただきました。

その次、(2)の②です。「どの施設においても一定の保育の質が確保され、向上されていくための取組」というところですが、ここも石川委員からの追加意見でいただいたところですが、もともとの表現としては、「保育の質の格差が広がらないよう、保育の質確保のための取組」というものだったのですが、質のよい保育がさらによくなることを拒むように読めるということで、この表現を石川委員からいただいたところですが。

続いて、2の(2)、延長保育事業のところですが、ここに関しましては、前回会議でご審議いただいた内容に即して修正しております。

続いて、(3)の学童保育のところ、2ページに参りまして2行目、「暫定的な対応が行われている」、こちらに関しては、石川委員から追加意見をいただいたところですが、ここは文体の問題です。

その次、「必要な定員数を増やす方向で進めていただきたい」という部分ですが、こちらでも石川委員からの追加意見で、もともとの表現としては、「抜本的な解決に向け意識を持ち、スピード感を持って取り組んでいただきたい」という表現だったのですが、ここももう少し具体性を持たせたほうが良いというご提案をいただいたところですが。

その次に参りまして、(4)放課後子ども総合プラン事業です。「学童保育の生活の場としての機能を保全しつつ」という表現を追加しております。こちらに関しては、古源委員からの追加意見です。放課後子ども教室と学童保育の完全一体化を目指しているようにも読み取れるということで、この表現を追加したほうがよいということでいただきました。

その次の「子どもの居場所」というところですが、こちらは前回会議で表現を修正したほうがよいということで変えております。

(4)の最後の行になりますが、「空き部屋等」で、ここは「等」を入れたほうがよいと前回会議であったところですが。

続いて3のところですが、「特に今年度」以下ですが、これは石川委員からの追加意見です。重点点検・評価項目のうち、C、Dになった事業に関しては明記したほうがよいということで、このような追加の提案をいただきました。

なお、ここの表記の中に1カ所訂正箇所がございます。最後のほうになりますが、括弧内で、「保育課のプレママ・プレママ事業」とございますが、正しくは「保育課のプレママ・プレパパ事業」となりますので、すいませんが訂正のほどお願いいたします。

あと、一番最後になりますが、「適切に評価できるように改善いただきたい」と、こ

ちらは前回会議でご意見いただいたところです。

資料32からの変更箇所は以上となります。なお、別紙1から3につきましては、資料32から変更ございませんでしたので、本日の資料配付は省略させていただきました。

説明は以上になります。

○松田会長 ありがとうございます。

前回ご審議いただいた内容をこういう形で下線部の修正をいただいたところでございます。この点検・評価に関しては4回、少しずつ回数をとって話をしておりますので、もちろん全てはこの2枚の中に盛り込まれるものではございませんけれども、基本的にそのプロセスでのお話は逐次、市役所のほうとのやりとりをさせていただいているのと、別表のほうで修正いただいたりしているところもございますので、そういう前提があつての今回のまとめになっているということで、ごらんいただけたらと思っておりますのでございます。

もし、こういう形でご了承いただけるようでしたら、今回はこういう形で提出させていただくということで進めさせていただいてよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ声あり)

○松田会長 ありがとうございます。それでは、資料34という形で提出させていただこうかと思えます。

これは最終的に市長に報告する際に、事務局と若干文言の調整とかをさせていただく場合がございますが、その場合は会長に一任いただくということで進めさせていただいたよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ声あり)

○松田会長 ありがとうございます。

それでは、次に次第(3)、次期計画策定に係るニーズ調査を検討したいと思います。

○有馬委員 すいません、ちょっと戻っていいですか。

○松田会長 どうぞ。結構ですよ。

○有馬委員 この回答はたしか、市長から来るとは思いますけど、それって公開されるのでしょうか。私が見たところ、ホームページに去年の回答が見当たらなかったようですけど。

○子育て支援係長 回答という形では……。

○有馬委員 市長から回答は来ないんですって。

○子育て支援係長 はい。書面による回答はお出ししておりません。各事業の担当課に報告書の内容を

伝え、それに基づいて各担当課のほうで事業の実施や改善に取り組んでいくと。

○有馬委員 わかりました。

○松田会長 諮問を受けて出すものになっていますけど、ただ、委員の中から市長のコメントがもしいただけたらという意見も出たということをおわせてお伝えてできたら、ぜひよろしくをお願いします。ありがとうございます。

それでは、前回も中間報告を聞いていただきました、ニーズ調査の件に移りたいと思います。

それでは、本日、35ということで大変分厚い資料になってございますが、事務局のほうからご説明を受けたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

○子育て支援係長 ニーズ調査の結果につきましては、前回会議で中間報告いたしました。このたび資料35のとおり報告書（案）がまとまりましたので、ご報告いたします。全体で126ページと非常に膨大ですので、ポイントについてのみご説明させていただきます。

まず、4調査のうちの、就学前児童の保護者調査になります。

9ページです。保護者の就労状況についてですが、母親の就労状況になります。「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が前回19.5%だったのが、28.1%に増加、その下の「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である」もやはり12.3%から18.1%に増加していると。平成25年度調査と比較しますとフルタイムの就労率が非常に高まって、14.4%の増加となっております。

続いて15ページからが、平日の定期的な教育・保育事業の利用状況になります。

16ページになります。「平日どのような教育・保育の事業を利用していますか」という質問に対して、16ページ下のところに、平成25年度の前回調査との比較がございます。幼稚園につきましては、前回は43.2%、それが今回は31.5%。認可保育所は、前回40.7%から53.2%と、12.5%大幅に利用率が増えております。

以上が現在の状況ですが、今後の希望が、20ページになります。20ページの下段のところ、「平日の教育・保育の事業として『定期的』に利用したいと考える事業をお答えください」との質問になります。ごらんいただきますと、幼稚園が最も多く52.3%、続いて認可保育所（公立）で、認可保育所（私立）となっております。認可保育所について、私立、公立をあわせると57.6%となって、幼稚園を上回る結果となります。

21ページに参りますと、25年度との比較を記載しております。幼稚園に関しまして、前回、57.4%が52.3%と若干の減にとどまっています。先ほどの現状の利用状況に関し

ては大幅に減っていますが、潜在的な利用希望としてはあまり減っていない。幼稚園に対する潜在的なニーズはまだ高いことが読み取れます。認可保育所に関しましては、前回は49.3%、今回は57.6%と、8.3%高くなっており、認定こども園に関しましては、前回は19.6%、今回は29.2%とかなり利用希望が高くなっており、

続いて28ページに参ります。一時預かりの関係でございます。上のところですが、私用、親の通院、不定期の就労等の目的による一時預かり等事業の利用意向につきまして、56.4%が「今後利用したい」となっております。前回調査と比較すると、3.1%利用意向が高まっていて、今回も高い結果となっております。

続いて42ページです。「子育てをする上で、周囲からどのようなサポートがあればよいか」というところで、一番ご意見が多かったのが一時預かりを充実してほしいということです。「また」以下ですが、「気軽に話ができる機会として、同じ境遇、同じ世代で交流し気軽に話ができる機会をつくってほしい」との意見も多く見られました。

続いて47ページです。小学校就学後における放課後の過ごし方に関する質問項目です。ここは、お子さんが5歳以上の方のみ回答をいただきました。「小学校就学後、放課後の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか」というものです。一番多かったのが習い事で、54.3%、続いて、自宅が45.2%、学童保育が44.3%となっております。前回調査と比較して、過ごさせたい場所について大きな変化は見られませんが、女性の就業率の高まりに伴い、学童保育は前回調査よりもう少し上がるかと思っておりましたが、前回43.8%、今回は44.3%で意外と伸びませんでした。

続いて52ページです。小金井市の子育て環境や支援への満足度に関する質問です。こちらに関しては、前回調査のときは満足が2.4%、やや満足が23.6%、不満が15.7%、やや不満が22.8%と不満系の回答が満足系を上回っており、今回どうなるか注目していたところですが、今回は満足が4.0%、やや満足が25.7%と満足系は3.7%の増加。不満系を見ますと、やや不満が20.7%、不満が10.7%と不満系は7.1%の減。満足系と不満系がほぼ同じ数字となりました。特に不満に関しては減っていることが読み取れます。

続いて54ページです。子ども・子育て支援に関して小金井市や地域で充実してほしいこととなります。こちらに関しましては、3つの保護者向けの調査全てでこの質問を入れておりますが、一番多かったのが、「経済的負担を軽減する」で47.1%。保護者向け3調査すべてで、この経済的負担の軽減が一番となっております。続いて、「子どもの居場所と交流の場を充実する」となっております。

続いて、就学児童の保護者調査になります。

まず、58ページになります。保護者の就労状況です。母親の就労状況について。前回調査と比較しまして、フルタイムでの就労率が6.5%増加しております。就学前ほどではありませんが、母親のフルタイムの就労率が上がっています。

続いて71ページです。「子育てをする上で周囲からどのようなサポートがあればよいとお考えでしょうか」との質問です。多かったものとして、「放課後等に勉強をサポートしてくれる場があるとよい」というご意見が多かったです。放課後について、単なる居場所づくりだけではなく、教育の機会を増やしてほしい意向が強い。また、一時預かりに関するサポートの要望も多かったです。

続いて76ページ、放課後の過ごし方です。放課後（平日の小学校終了後）の時間で過ごす場所、これは現状ですが、自宅がもっと多く76.6%、次いで習い事が71.4%となっております。前回調査と比較しますと、放課後子ども教室で過ごす割合が伸びていて、前回は5.5%、今回は17.9%と放課後子ども教室で過ごす割合が12.4%伸びております。

以上が現状でしたが、これが今後の利用希望になりますと78ページになります。今後、放課後の時間をどのような場所で過ごさせたいか。これは習い事が一番多くて、73.4%。現状としては自宅で過ごしているお子さんが、今後はできるだけ習い事で放課後を過ごしたいという希望が見えてきます。なお、この中で、放課後子ども教室は前回調査が29.8%で今回は22.9%、学童保育所が20.6%から15.9%と、このあたりのニーズが意外に下がっています。

続いて83ページ、子育ての環境や支援満足度です。こちらに関しましては前回調査のとき、満足系の回答が24.6%、不満足系が31.1%と、やはり不満系のほうが高かったのですが、今回は結構改善しまして、特に満足系が高くなり、満足が6.5%、やや満足が28.4%で、合計34.9%。前回に比べまして、満足系の回答が10.3%向上しております。

続いて86ページです。子ども・子育て支援に関して小金井市や地域で充実してほしいこと。やはりトップは、「経済的負担を軽減する」が最も多く43.6%、次いで、「子どもの居場所や交流の場を充実する」が40.8%、「子どもが安心して学べる環境をつくる」が36.8%で、子どもの居場所や学ぶ場所の確保が望まれています。

続きまして、3つ目の、中学生・高校生年代の保護者調査に参ります。

94ページです。下のところになりますが、「子育てに関して日ごろ悩んでいること、気になること」との質問です。勉強や進路が最も多く、70.4%となっております。次い

で、インターネット・メディアとのつき合い方が46.6%となっており、現代的な項目が2番目に出てきています。

95ページに参りまして、お子さんの高校・大学への進学に関する不安です。不安があるという方が74.4%となっており、その下に行きまして、進学に不安がある方のみ回答いただいたのですが、進学における金銭面での不安ですが、金銭面での「不安あり」という方が77.6%で、約8割の方が金銭面に関して不安を抱えています。

続いて104ページになります。子ども・子育て支援に関して小金井市や地域で充実してほしいことです。こちらもやはり、「経済的不安を軽減する」が最も高く、48.3%となっており、この48.3%という数字ですが、保護者向けの3調査の中で最も高い数字で、中高生年代が一番経済的負担を感じているのかというところです。次いで、「子どもが安心して学べる環境をつくる」が30.1%、「子どもへの虐待や犯罪を防止する」が26.5%となっており、

最後に中学校・高校年代の青少年調査になります。

109ページです。「放課後や休日を過ごす施設や遊び場について、近所にどのような施設があるとうれしいか」。一番多かったのが映画館で42.0%、また、今回初めて入れた選択肢ですが、自習できる施設と回答した割合が35.7%と多かったです。

その下に行きまして、「あなたが日ごろ、もっとしたいと思っていること」です。「友達と遊ぶこと」が最も多くて、48.4%、次いで、意外なところで、「ゆっくり休むこと」が39.2%となっており、なお、この後に睡眠や健康面に関する調査が出てきますが、睡眠時間の少なさや健康面での不安を感じる割合が多く、「ゆっくり休むこと」への希望につながっているのかと思いました。

続いて、113ページです。下段のほうになりますが、「どの施設の内容を充実してほしいですか」です。「図書館の自習スペースを増やしてほしい」が最も多く、また、「宮地楽器ホール、公民館に関しても自習スペースを増やしてほしい」との要望が多く、自習スペースに関するといった要望が多いです。

続いて120ページになります。「ふだんの体の調子はどうですか」です。「調子はよい」と回答した方の割合が55.2%にとどまっており、「朝すっきり目覚められない」、「眠いことが多い」と回答した人の割合が約45%となっております。右の表を見てくださいと、「疲れやすい」も34.2%となっております。

続いて、124ページ、将来のことについてです。「将来つきたい職業はありますか」

で、「つきたい職業がある」、「ぼんやりだがある」と回答した人は83.8%となっております。将来つきたい職業について8割以上の方が思い描いています。

125ページに行きまして、将来に不安を感じている方は45.1%で、不安を感じている内容についてはその下で、就職が最も多くなっていて、70.8%、次いで、勉強、進学となっております。将来の不安としては、身近な勉強、進学よりも、就職に対する意識が強いようです。

詳細については資料をごらんいただければと思います。

なお、自由記述回答ですが、本日の資料には掲載しておりません。委員の皆様方には2月上旬に自由記述回答の単純集計をお送りしたので、既にごらんになったかと思いますが、件数が1,000件弱で数が膨大かつ内容も多岐にわたっており、現在、集計分類作業を行っているところです。

最終的な報告書にはこの自由記述回答を項目別に分類した形で30ページ程度掲載したいと考えています。その追加分をあわせると、報告書は最終的に150ページから160ページ近くになると見込んでおります。

報告書作成の今後の流れですが、近日中に委員の皆様へ自由記述回答を含めた形での報告書（案）をお送りしたいと考えております。それをごらんいただきまして、もしご意見があるようでしたら、毎回期限が短くて申しわけないのですが、3月13日までに意見提出いただきたいと思います。報告書につきましては、本日の審議内容と、あと、3月13日までにいただく追加のご意見も加味しまして修正の上、3月末までに報告書を確定させたいと考えております。

説明については以上です。

○松田会長

ありがとうございます。

今ご説明ありましたけれども、3月13日までにご意見があればということでしたが、本日少しポイントをご説明いただきましたので、もし本日の段階で少しお話がございましたら、いただければというところをお願いしたいと思います。

報告書の作成自体はこっちのリード文で解釈がおかしいんじゃないかとかがあればご指摘いただければと思うんですけども、基本的には調査の結果ですので、あわせてこういう結果を見て、少し日ごろの子育て、あるいは地域の環境の中でお感じになられていることとか、気づかれていることなんかも少しご意見としていただけたらありがたいかなと思うところでございます。いかがでしょうか。

- 北脇委員 書式に関する事なんですけど、第1章、第2章ということで、右上のところに「第2章調査結果」と書いてあるのですが、年代も一緒に書いていただけると助かるのですが。読んでいて、これはどの年代の質問だっけというのをさかのぼったときに、すごく見にくくてわかりにくいので、右上のほうにそちらの記載もお願いします。
- 子育て支援係長 最終的な報告書ではそのような形にさせていただきたいと思います。
- 松田会長 そうですね。4つ調査がございますので、どの調査を指しているのかというのがわかれば、確かに大変見やすいと思います。
- 有馬委員 私もちっと書式に近いところなんですけれども、1章の調査の概要のところ、前回の報告書には標本誤差が書いてあるのに、今回、それがすっぽりなくなっているんですけど、何か理由があるのでしょうか。
- 子育て支援係長 ご指摘のとおり、入れたほうがよいかと思いますので、最終的な報告書の中には入れさせていただきたいと思います。
- 松田会長 これは前回も確かに入っていましたので、報告書としては入れていただいたほうが非常に読みやすいかなと思います。
- ほかはいかががでしょうか。
- 水津委員 ちょっと感想を言ってもいいですか。
- 松田会長 ぜひお願いします。
- 水津委員 予想はしていたんですけど、回答者の保護者の世帯収入が、やはり高額な人の割合がすごく多くて、アンケートに回答する余裕ですとか、そういうものと何か関係があるのかなと。思った以上に高額所得の方の比率が高いのは、小金井市の方が高額所得なのかもしょせんけど、その辺のところ、ほんとにそここの調査がどうなのかというの、回答方法も含めて、ちょっとだけ気になりました。
- 松田会長 そのあたり、いかがですか。
- 子育て支援係長 回答率と収入の相関関係に関しては調べていないのでっきりしたことは言えないのですが、そこまで目立つような結果は出ていないのではと思います。
- なお、所得が高くない方のニーズをいかに把握するかということですが、ひとり親家庭は平均所得が少ないことから、ひとり親家庭向けの調査を行うといった手段は考えられるところでして、子育て支援課として実施を検討しているところです。
- 松田会長 今のは僕もお伺いさせていただきたいんですけど、回答を返してくださった方の収入というのはアンケートでわかると思うんですけど、返して下さっていない方に対して

も、もちろん調べようと思えば調べられると思うんですが、そのあたりのフォローもなさる場合もあるということですか。

○子育て支援係長 そこはフォローする予定はないので、よくよく考えますと相関関係を把握するのは難しいということになります。

○松田会長 どうぞ。

○有馬委員 これは、せっかくだから、クロス集計できないこともないわけですよね。

○松田会長 回答してくださった方の収入層ということでクロス集計できますね。

○有馬委員 はい。これは、今回はただ単にパーセントで出てしまって、希望がない人が何十%とか、満足している人が何十%となっていて、クロスをやれば、高取得層の人は満足が何%、低取得層の人は満足が何%というのもできることはできますよね。

○松田会長 ですますね。

○有馬委員 だから、今は一括りにしてしまって、そういう年収とかを分けずにしてしまっているのが問題という指摘ではないのでしょうか。

○水津委員 そういうふうにとれないかなと私は個人的に思ったんですけど、ただ、回答している人としていない人がわからないので、どうすればそこが拾えるのかなというのが意見の趣旨なんですけど、ひとり親が確かに低所得ではあるとは思いますが、それだけではないかなと思う部分もあるので、何かもうちょっと、私が思っていた以上に、予想はしていましたけど、わりと割合がどうなのかなというふうに見えたところです。

○松田会長 今、少し重要なご指摘をいただいていると思いますけど、2つご指摘があって、一つはクロス集計みたいなことをすると、例えば所得という要因でこの傾向というのが分析できるのじゃないかというご指摘です。もう一つは、そもそもこういうアンケートをお返しになられるという集団が所得の高い層になっている可能性はないのかという。

○水津委員 そうですね。

○松田会長 そうすると、もしそういう可能性がある、所得の低い方の声というのがこのアンケートからなかなか読み取れない可能性もあるということで、そのあたりはどうなっているのか、特に後半の部分はどうなっているのかというのがわからないところがあるんです。

○村上（洋）委員 ちょっと関連してよろしいですか。所得の問題だけじゃなくて、多分、この調査自体で、まず、年齢層の偏りというものの中にあるんじゃないかなというのは、回答数を見ても就学前、だから、小学校世代の保護者というのがやっぱり3分の2ぐらいで、

中高生ってその世代になると回収率も低いですし、どちらかというと、小さいお子さんをお持ちの保護者の方の意見がすごく、もちろん分かれていますけれども、というところで、中高生の回収率が低いので、そのところが十分とれているのかなというのと、経済的な状況だけじゃなくて、アンケートに回答する人と回答しない人が当然いて、回答しない方の部分って、もちろんこのアンケートから見えないわけですが、そこについて、今後のことになるかもしれないですけども、そこを聞き取っていくような行政としての工夫というか、そういったものがあるといいなと思うんですけど。

ある程度限られた方で、少数のきちっと返していただく方の意見はここに一応出ていますけれども、それ以外のところ、特に中高生というところはなかなか十分に反映されていないんじゃないか、ちょっとこれは個人的な意見ではありますが。断定はできないんですけども、回答してない人の意見を吸い上げるというか、聞いてもらえるようなことについて、この趣旨じゃないかもしれないですけども、何かそういうものが欲しいなと思いました。

○黒木委員　私も感想と次年度のことで。前回の調査との比較をするという目的もあったということで、大体同様の調査も質問紙でやったわけなんですけど、経済的なところも一因にあるかもしれないし、あと、こういったことに関して、関心が高いか低いかというのでも変わってくると思います。あれだけの膨大なアンケートですから、見た瞬間に回答する気なしという方だっていらっしゃると思いますから、実態をできるだけ把握しやすいように簡素化するとか、ネットでの回答という方式を取り入れるとか、何かそういう工夫がまた今後できるのではないかなと思ったりもしました。

以上です。

○松田会長　ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員　今回のニーズ調査も報告書（案）という形で出ているんですけども、この内容というのは出てきた結果のデータの集計結果ですよね。僕は集計結果じゃなくて、報告書（案）と言われたら、この結果を市がどう解釈したかということが書いてあるのかなと思って期待していたんですけども、そういうことはしないのでしょうか。

例えば、意外と伸びなかったとか、そういう表現が幾つかあったと思うんですけども、それはなぜかという市の考えがないと、それをどういうふうには政策に反映しようとしているのかというのがわからないので、市の立場として、こうなっているからこう思っているとか、このポイントについては重要視しているとかいうことはこれには盛り込

めないでしょうか。

○子育て支援係長 今回の報告書の中でどこまで解釈を書けるかについては検討させていただきたいと思えます。

その後の話として、報告書の内容を具体的に反映するのは来年度の次期計画になりますが、次期計画の中で市として捉えたものを反映させた形で計画案をお示ししたいと考えております。

○鈴木委員 わかりました。

○松田会長 そういう意味では、なかなか我々もこういう数字を読み解くのが専門でやっているわけではないかと思うので難しいのですが、こういう特に市民の皆さんが参加される会議で、ある種のデータをどう見るということをしてできるだけ市にお伝えしていくことが重要なことなのかなと思います。

どうぞ。

○鈴木委員 例えばですけれども、学童のニーズがあんまり伸びていなかったような結果があったことに対して、だから、そこはしばらく大丈夫だと思ってしまうのか、場合によっては、今、学童の定員に対して人がいっぱい来ているから、魅力的じゃないからこの項目が伸びなかったかもしれないとも思うわけです。そうすると、その後の対応として、180度逆の政策になってしまうので、それをやっぱりどう捉えているかというのは興味があるので、何かもう一步欲しいなというのが正直な感想です。

○松田会長 どうぞ。

○子ども家庭部長 確かにこの結果を見て、保護者の就業が増えていると自覚はしていましたので、意外と学童の希望者の数が増えていなかったというのは私も感想としては思っていました。これは抽出でやっているの、その方の希望かなというところで思っておりますので、じゃあ、このアンケートの結果だけで利用者が少ないかという形ではなく、例えば学童の関係でいきますと、入所されるお子さんの大体の人数、さらに今までの実績として、どれだけお子さんが1年生に対して入られているかという、また別の集計というものを持っているところもありますので、こればかりではなくて、そういった学童の場合はそういうニーズのデータをもとに、当然、これから多分、皆様方に見込み数というのを出すんですけれども、それが、前回までは過去の最大値を使って出したんです。ただ、いろいろな要素があって、もうちょっとプラスアルファ分が見込めるだろうということろまで来ていて、この意見もいろいろ出た中でつくってきた経過もございますので、そ

それぞれ担当において、個別にさまざまなデータを持っておりますので、ですから、これも一つのサンプルだと思っておりますし、そういったものもサンプルになって、そういったものを踏まえて、どういう形の政策というものを今後していくべきかというのは、新年度になりまして、これらをもとに担当課のほうでお出しをさせていただいて、皆様方から議論していただきます。

また、多分、必ずしも数字が多いものばかり取り上げるとい形には行政はなりづらいていると思っております。ですから、少ない声でも取り入れなければいけないところも当然出てくるだろうと、そういったものは皆様方に、我々もこれを熟読をして、政策をしていますけれども、例えばこういったものが欲しいよねという皆様方のご意見というのも、当然、我々としてはそれを伺って政策に当たっていかねばいけないと思っておりますので、そういったさまざまものを活用しながらという形の考え方でございます。

ですので、今のアンケートの結果だけをもって、市としてというところは、やはり双方向的なものも含めて、次期計画のほうでお出しをさせていただきたいというのが基本的な考え方という形でご答弁させていただきます。

○鈴木委員 わかりました。

○松田会長 どうぞ。

○有馬委員 今回の、学童がそもそも伸びなかったというのは、47ページの結果をもとにということですよ。

○子育て支援係長 そうです。

○有馬委員 そうですよね。これを見ると、伸びているのは学童と無回答だけで、あと、「伸びなかった」という文言は報告書には入らないんですよ、今の文面が維持されるとすれば。

○子育て支援係長 はい。母親の就業率の高まりと比較すると、それほど伸びなかったという感想を述べさせていただいただけで……。

○有馬委員 全体的に伸びなかったんですよ、これを見ると。

○子育て支援係長 そうですね。全体的に各選択肢に関して減っていて、無回答がなぜか多かったです。

○有馬委員 それとあと、関連してなんですけど、人口は増えているわけですよ。

○子育て支援係長 はい。

○有馬委員 ということで、パーセントが同じということは、需要が増えているという理解でよろ

しいですか。

○子育て支援係長 はい。

○有馬委員 よろしいということですね。

○松田会長 はい。

○高橋委員 すいません、先ほど各調査の中で支援の満足度についてのご説明があつて、満足、やや満足が増えていて、不満が減っていると、各項目でそういうふうにおっしゃっていたんですけれども、私どもは毎年、第三者評価を受けるのが義務づけられていて、その満足度調査を各項目ですると、「どちらともいえない」というのは、どちらかという満足していないほうに評価をするんですね、必ずしもそうではないんですけれども。ですから、どの項目でも「どちらともいえない」という割合がすごく多いということはどうなのかなというところを少し何か考えてみていただけたらと思います。

それから、私は先に自由記述のほうを読んでしまって、これよりも前に、そうすると一時預かりというか、ほんとに困ったとき、どこでもいいから、短い時間でもいいから預かってほしいという悲鳴のような、そういう意見がすごくたくさんあつて、保育所をやっている者としては切実に感じたんですけれども、やっぱり調査の数字の中にあまりそういうふうに出てこない。確かに一時預かりの希望が多いという項目は出てきているんですけれども、数字としてはそうでもないのかなという感じがして、非常に切実な意見が自由記述の中に多かったところが、こちらの報告書のほうに反映されているのかなと感じました。

以上です。

○松田会長 ほかはいかがでしょうか。

少し先ほどからお話を伺っていて、そこに何がしか横たわっているように感じるものがあるので、これは個人の意見という形でお話ししたいんですけど、いろんな委員の皆さんのご意見が市役所のほうに特に強くお伝えされようとなさるのは、こういう数字が出たときに、その数字の解釈というのが、いかようにもいろんな形でできて、都合よく使わないでねというメッセージだと思うんです。市役所のほうもわかっていますよというメッセージを多分出されているというやりとりだと思うんですけど、ただ、都合がどれほどつけられるのかとか、むしろこの数字をどれだけいろんな目で見ても、いろんな意見が出せるのかということは、たくさん話し合うことは大事なことだと思うんです。ですから、そういう意味では、ぜひいろんなご意見を出していただければと。

僕なんか、先ほど満足度という話がありましたけど、83ページに小学校の保護者の方の満足度と、52ページの就学前の保護者の方の満足度を見ると、確かに経年比較では両方とも満足傾向がやや増えているという傾向に動いているのですが、今、ご指摘があったとおり、よく見てみると、就学前の保護者の方は「どちらともいえない」は経年変化で増えていて、つまりこんな解釈も一つあるということですけど、就学前の場合はものすごく、何これと思っていた状態から、まともになったわねという感じになっていて、こちらの小学校のほうはどちらかという、よくなっているという動きになっているとか、一つの解釈ですので、意見を自由に言っているという傾向に見えたりもするだとか、そんなのはいろんな見方をしていくことで、何か我々側が会議として政策的にお願いしたいことも意見としてたくさん出てくると思いますので、そんな感じかなと思っています。

○水津委員 先ほどご指摘あった中高生の回答率のところ、3割というのは、この形としてはかなり上できかなと私は思っています。ただ、中高生の意見表明というところを見たときに、この形の調査以外、これはこれでもう当然しょうがないんですけど、これ以外にも中高生が今考えていることとか、希望だとかいうことをどこかでとれるような方向を今後、検討していく必要があるかなと思います。

子どもの権利条例の中に、子どもの意見表明というところがありますし、それを一番意見を出しづらい年齢のその子どもたちがどうやってそこを出して、それをどう大人が酌み取れるかという仕組みを今後、検討課題なのかなと思いました。でも、3割出しているというのは、なかなか悪くはない数字だと思います。

○村上（洋）委員 ちょっと関連して。小金井市全体の子育てのレベルを上げていくという大きな目的の中で、保育の問題とか、小学校の教育とかいうのも重要だと思うんですけども、ある程度そこに関しては、すごく共通性がどこの自治体でもある部分じゃないかなと思ひまして、小金井市が日本で一番子育てにいい環境だとかを目指すとしたら、今お話が出たような、中高生のところに少し手を差し伸べていくというか、そういう環境をつくっていくことで、小金井らしい幅の広がりだとか深味が出るんじゃないかなと思いますので、具体的ではないですけども、その辺を力を入れていただきたいかなと思っています。

○黒木委員 小金井らしさということであれば、近隣の他市との比較というのが、わりと敏感に出てくるんじゃないかなという気がしました。ただ、今回のアンケートについては、25年度との調査で大体同様の傾向が出ているので、わりとこれは信頼性があるのかなと感じ

たりはします。

以上です。

○松田会長 ほかはいかがでしょうか。

先ほど中高生の話題が出て、ご紹介の中でもSNSとか、そのあたりのご心配が保護者の方にも相当大きいという話がありましたけど、確かに小学校、中学校あたりで今、非常にこれは大きな問題になっていますし、いじめだとか不登校だとかということにも非常に要因になりやすい問題になっていますから、このあたりは、先ほど現代的なという言い回しが使われていたけど、それは一回りもっと進んでいる感じがあって、日常的な環境になっていて、これは、行政とか学校とか保護者の方が一緒になって取り組んでいかないといけない問題なんだなと、そういうのも一つあるなと思って。中高ということでお話を伺っていましたけど。

はい。

○倉持職務代理 今、中高という話題が出ているんですけども、分析によっては、先ほどクロス集計という話もありましたが、中学生と高校生と分けたほうが現実がよくわかることもあるんじゃないかなと。例えば放課後や休日の過ごし方だとか、いろんな施策について知っているかということなどは、中学生と、あと、高校生でも就労している人もいると思うんですけども、そこで違いが出てくるんじゃないかと。そしたら、どこら辺をターゲットで絞ってやっていったらいいのかということが、もうちょっとクリアに見えるかなという気はします。

○松田会長 先ほど出ていましたけど、クロス集計というのは、幾つかもできればやっておいたほうがいいかもしれませんね。

ほかはいかがでしょうか。

○北脇委員 クロス集計をお願いすれば、できるものに関してはやったださるということなんですか。それを13日までに提出する、そういうことでよろしいでしょうか。

○子育て支援係長 残り時間と作業量によりどこまで対応できるかということとはございますが、このあたりをクロス集計して、細かく分析してもらいたいというご意見がありましたら、挙げていただければと思います。

○北脇委員 じゃあ、先ほどの話に戻るんですが、放課後の過ごし方で、学童保育所が思ったより伸びていないというお話をしたんですけど、母親が就業していて預けているとか預けていないかとかいったところをもうちょっと詳しく見てみたいと思うので、その点につ

いて、できる範囲でお願いします。

○松田会長 ほかはいかがでしょうか。

そうしましたら、今までのご意見も含めて、13日までということですが、さらにもしございましたら、事務局のご連絡をいただいた上で、こちらのほうは報告書としてうまくまとめていただいた上で、今後の議論にも非常に役立つ、あるいはこれがベースになって議論するような事項もたくさんございますので、引き続きこの資料を利用しながら、場合によっては先ほどのような、ある項目でクロス分析してもらえませんかみたいなのも。経費がかかることだと思いますので、どこまで対応できるかというのはもちろん限界があると思うんですけれども、そのような形で進めさせていただくということでもよろしいでしょうか。もし何かございましたらと思いますが、よろしいですか。

○子ども家庭部長 1点、今、中高生の意見の表明の場というところでご意見が出たのでお話をさせていただきます。

高校生の意見を聞く場というのは、機会がなかなか難しいところはあるんですけれども、今度、小金井市の第五次基本構想という大きな上位計画をつくっていく形になります、平成33年度からになるんですけれども。来年度の主な事業概要の中で、子どもとか若者の参加というところがうたっておりまして、中学生という形になると思うんですけれども、10年後の小金井市の将来像について検討してもらおうような市民参加の事業というところを今、市の中では計画をしているというところがございますので、ご紹介という形だけさせていただきたいと思います。

○松田会長 委員の皆さんから出た意見で、市民の声をキャッチする方法というんですか、このアンケートは子育て会議の中で、国が基準を設けてガイドラインを出しているということもあって、そういうある種のモデルに乗った動きになっているんですけれども、小金井の実情をより捉えていくためには、そのあたりのところも少し柔軟に検討しながら、いろんなプラスの資料があれば、それをもってまた使っていくとかいうことも、やや頭の中に入れていただきながら進めればというご意見があったのかなと思います。

でも、実際こういう調査、倉持先生がご専門ですけど、難しい調査ではあるんですよ。結局、確率の話なんですけれども、小金井に例えば10万人いらっしやったときに、総体は何を思われているかといったときに、全員に1人ずつ聞いて、何%という数字が出て、そしたら、例えば55%の方はこう思われている、45%の方はこう思われているとなったら一番はっきりするんですけれども、実際にそれは難しいわけで、そうすると、

ある方に聞くということになると、じゃ、ある方は市民を代表されているということになるかという話になって、それでこういう無作為抽出だとか、標本をとるという考え方で進むんだと思うんです。

ただ、標本のとり方というのもいろいろあるので、できるだけ確率としてキャッチするのに、今の時点でセカンドベストかもしれないけど、最も可能性がしっかりとつかみ取れるものということで、そういうガイドラインが出されたりやっけていくと思うんですけど、ですから、常に出ている結果は非常に重視されるものですけども、もちろんそれは絶対ではないというところがあって、そのあたりをしっかりと。

ただ、これは絶対ではないということを言い出したら、エビデンスベースとよく言われますけど、何の根拠もなく考えだけで話をするということになりますから、そういう位置づけなんかも、皆さんで話し合いながらやっけていけるといいかななんて思ったりは時々します。

○有馬委員 今、会長の言ったことは大変いいことだと思うので、最初の1章のところにもそういう背景とかももう少し。ただ、これは数の話しかないような形でして、例えば5年前と人口がどう変わっているかとかいう話も入れたほうがいいのかなと思いました。

○松田会長 そうですね。先ほど、去年から落としたものもあるという話がありましたけど、そういう調査の背景的なことというのは、確かに書いていただけるとより広く使える感じはします。

ほかはいかがでしょうか。よろしいですか。

それではひとまず、次第（3）は終わらせていただきまして、次は、次第（4）の「（仮称）のびゆくこどもプラン 小金井（第2期小金井市子ども・子育て支援事業計画）」策定スケジュール（案）についての議案に移りたいと思います。

それでは、配付資料に基づいて、事務局のほうからご説明をお願いしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○子育て支援係長 資料36をごらんください。来年度における新計画策定のスケジュール案になります。

現委員の任期は8月7日までとなっております、その間に新計画の第4章の子ども・子育て支援施策、現計画での89施策と現行計画の総括として、現行計画の到達点、課題、今後の方向性等の部分についてご審議いただきます。5月の会議でこの部分の原案をできればお示ししまして、5、6、7月の3回の会議でご審議いただきたいと考えております。

その後、8月に委員の改選を行いまして、改選後の委員のほうで第3章子ども・子ども・子育て支援事業計画の部分を中心にご審議いただき、12月末までに新計画の素案を作成いたします。その後、1月に新計画の素案についてパブリックコメントを実施いたします。子ども・子育て会議のほうでもパブリックコメントを踏まえ、新計画の案についてご審議いただきまして、3月末までに新計画を策定したいと考えております。

説明は以上になります。

○松田会長 ありがとうございます。ちょっと質疑に移る前に補足いただければと思うんですけども、今のスケジュールで、7月まで4章、8月から3章とあったんですけども、この章に対して、全体がどういう章で、どういう内容になっているのかというのを先にご説明いただけると、さらに内容がご理解されやすいかなと思いたしたので。

○子育て支援係長 新計画の章立て、構成につきましては、原則として現計画を踏襲する形で考えております。現行計画、こちらののびゆくこどもプランをお持ちでしたらごらんいただければと思いますが、まず、「第1章 計画の策定にあたって」で計画策定の趣旨であるとか、基本理念、基本的な視点と目標、あと、課題と方向性などが記載されております。第2章として、「小金井市の子ども・子育てを取り巻く環境」としまして、ここに関しては、今回のニーズ調査の結果であるとか、人口・世帯・人口動態、あとは教育・保育関係とかもろもろのデータの的などを中心に記載しております。第3章として、「子ども・子育て支援事業計画」、教育・保育施設であるとか、あと、法定13事業の量の見込みと提供量、需給計画について記載しております。第4章のところ、「子ども・子育て支援施策の取組み」ということで、法定13事業以外の子ども・子育ての施策、現行では89施策ございます。第5章として、「計画の推進体制」として、点検・評価の方法等を記載しております。

章の構成立てに関しては、基本的には現行とあまり変わらない感じかと考えております。

以上です。

○松田会長 ありがとうございます。今の中で、7月までに第4章を、我々のこの期の任期が7月までですので、新しい任期の委員会で、8月以降、第3章にという計画だというご説明かと思えます。

これにつきまして、何かご質問とか、よければ。

○有馬委員 1章で基本理念を書かれるということですけども、基本理念が一番大事な形で、そ

れに引っ張られると思うんですけども、それは現行とは変わらないということでしょうか。

○子育て支援係長 基本理念としましては、現行計画では、「子どもの幸福と権利保障を第一として、小金井市の子育ち、子育て支援の総合的な施策を推進していくこと」とございまして、これに関しましては、大幅に変わることはないかなと。基本理念ですので、5年のスパンでそれほど変わる話ではないかと考えております。

○有馬委員 ありがとうございます。

○子ども家庭部長 すいません。補足だけさせていただきます。

基本的には5年前に法定13事業を中心として、また後半の部分に89事業という形が新規にスタートしたところがございます。当然そういった中で、幾つかなかなか進まなかった事業等とかになりますので、前回の、今やっているものも含めて全体的に検証といった形も考えて、次の計画にしていかなければいけないというところがあります。

それとあわせて、章立てについては、基本的におおむね変わらない事業の中で、ただ、貧困の問題であったり、幾つか新たなものを取り入れなければいけないところがありますので、そこは事業のところ掲載する必要があるかと思っております。

それと今回、このアンケート等の中で、やはりさっきも言ったように、大きなものばかりでなく小さいものにも目を向けていかなければいけないというところは、担当のほうで計画をつくって、お見せして議論という形になるかと思っておりますけれども、今までの中では、特に水津さんのほうから子どもの居場所とかさまざまご意見をいただいていたところで、幾つかこの5年間、皆様方からのご提言も含めたところのキーワードになる部分は当然あるかと思っております。ですから、そういったものも整理させていただいて、基本的には理念はそんなに変わらないのかなと。ただ、それに向けて、この5年間やってきて進まなかったものが課題となり、今求められているものが新たにそこに政策的に打ち出されて、それがやはり事業に乗かっていく形になるかなと思っております。

行政の仕事なものですので、ものすごく事業がたくさんあるんです。前回も、水津さんはご存じだと思うんですけども、幾つか絞って行って、事業のほうもなかなか議論ができなかったと伺っていたりしますので、その辺も皆様方からのご意見をしていかなければいけないかなと思っておりますし、あと、評価の仕方もやはりなかなか全員皆さん方が全部見るのも難しいという中で、さらに我々としても、子育て環境を充実して

いかなければいけないというところになれば、ここの部分は重点の事業という形の明記も必要になってくるのかなと思ってございますので、そういったものも踏まえて、要は新年度につきましては、そういったものもご提示させていただきながら5月からスタートさせていただきたいというところで、今考えているというところだけ補足させていただきます。

○水津委員 すいません。ちょっと整理させていただきますと、まず法定13事業以外の八十何事業に当たる部分を審議するということですか。

○子育て支援係長 そのとおりです。

○水津委員 じゃ、その部分はこのメンバーで今まで評価してきたものを基準に、それを見直す方向をここでしましょうということによろしいんですね。それに対しての、有馬さんのおっしゃる理念の提示は、いつの段階でどのように。

○子育て支援係長 理念に関しましては第1章の部分になるかと思うんですが、ここに関しては、5月の会議でお出しできるかわからないですが、8月までのご審議の中でお示ししたいと考えております。

○水津委員 ということは、基本的には現行の理念に基づいて、その八十何事業を……、やりやすいとは思うんです。今まで審議をしてきたメンバーで、その事業に対して見直しをするということが一番わかりやすい話なので、そこは充実できるかなと思うので、その方向はいいと思います。

あと、点検・評価のことが見直しということとさんざん言われたと思うんですけども、その部分はどこで審議をすることになりますでしょうか。

○子育て支援係長 点検・評価につきましても、現委員の任期の中で8月までにご審議いただきたいと思っています。点検・評価の方法につきましても、「第4章 子ども・子育て支援施策」のつくりをどうするかという部分とセットになる話かと思っておりますので、同時並行でご審議いただくことになるかと考えております。

○水津委員 なるほど。その事業の内容とともに、どこをもって評価するということもあわせて審議をするという意味ですね。

○松田会長 ほか、いかがでしょうか。

それでは、一応スケジュールに関しましてはこういう形で、今ご議論いただいたことを含んでいただきながら進めていくということによろしくございますでしょうか。

(「はい」と呼ぶ声あり)

○松田会長 ありがとうございます。

それでは、次に次第（５）利用定員の設定についてに移らせていただければと思います。

それでは、配付資料から、事務局のほうにご説明をお願いしたいと思います。

○保育政策担当課長 では、保育課のほうで説明をさせていただきます。

資料37でございますが、こちらにつきましては、平成31年度に向けて施設の開設や定員拡充等を行ってきた結果を踏まえまして、平成31年度の利用定員数について、その予定数を記載させていただいたものでございます。資料の体裁といたしまして、平成30年度末現在の状況を右側に記載し、31年度との違いがある欄については網かけをさせていただきます。詳細は資料をごらんください。

以上です。

○松田会長 ありがとうございます。今ご説明いただきましたが、ご質問、ご意見等ございましたら、お願いしたいと思います。

○倉持職務代理 ゼロ歳の定員が増えている、例えばグローバルキッズは6人から9人に増えていますけれども、これは施設の平米が広がったということ。

○保育政策担当課長 こちらにつきましては、もともと一定の面積を持っていた中での、園としての設定の変更が行われたことよっての増という形になります。

○黒木委員 1から4まであるわけなんですけれども、総計のところを全部合計してみると、来年度、31年度については、増減はどうなんでしょうか。

○保育政策担当課長 全体の増減といたしましては、増という形になるかと思えます。ただ、こちらの資料でややわかりにくいところが、3月末日現在と4月1日現在という状況がございまして、年度の中での変動等もあった中での年度末と年度1日の比較という状況もございまして、比較としてわかりづらい部分もございまして、全体としては定員数は増傾向という状況になっております。

○黒木委員 わかりました。

○水津委員 単純な質問でごめんなさい。この（仮）と書いてあるところは新たな認可園ということよろしいでしょうか。

○保育政策担当課長 説明がおくれました。（仮）と書いてある3園につきましては、4月1日の認可化を目指しております新設園という形になります。

○水津委員 ハイジに関しても、認可に移行するということですか。

○保育政策担当課長 はい。そのとおりです。

○水津委員 それで、先ほどの黒木先生のお話じゃないんですけども、全体として量の確保が進んでいると解釈してよろしいのでしょうか。

○保育政策担当課長 今、水津委員がおっしゃられているのは、認証保育所から認可保育園のほうに移行した部分もあるので、相殺部分もあるのではないかとこの部分かと思いますが、3園新設という状況が既にございますので、基本的には全体として定員数は増えるという形になります。

○水津委員 それは、いわゆる計画上にあるような定員増、量の確保ができると捉えてよろしいんですか。

○保育政策担当課長 計画との比較の部分でございますが、中間見直しを行っていただいた際に、その翌年度で整備し切るという計画であったかなと思っております。その後につきましては、まだ待機児童等ございましたので、引き続き整備を続けていくことにさせていただいたんですが、毎年ローリングで計画数の変更は行わせていただいておりますので、計画数としてはその時点の数字のまま据え置きさせていただいて、計画数よりも多く整備をしているという状況になっております。

○水津委員 ありがとうございます。

○松田会長 ほか、いかがでしょうか。

○北脇委員 さっき倉持委員が確認したこととちょっと重なるんですが、今年度増えているところがグローバルキッズと第六コスモで、10と8増えていると思うんですけども、これは規定の広さというか、そういうのは十分に確保されていた中での増やしということではないんですかね。

○保育政策担当課長 はい。おっしゃるとおりでございます。

○北脇委員 ありがとうございます。

○松田会長 それでは、よろしいでしょうか。今いただきましたご意見を踏まえて、この会議といたしましては、この利用定員の設定について了承するというところでよろしいですか。

(「はい」と呼ぶ声あり)

○松田会長 ありがとうございます。

それでは、本日、一応予定していた議事は以上でございますが、事務局のほうから、その他ございますでしょうか。

○子育て支援係長 今後のスケジュールの中で、次回会議が5月と申しましたが、5月連休明けの予定

でして、後日、事務局のほうで日程調整をさせていただきたいと思います。またメール等でお知らせいたします。

以上です。

○松田会長 ありがとうございます。では、先ほどの、もしニーズ調査の報告書につきまして、ご意見ございますようでしたら、3月13日までいただくということと、最初の報告書につきまして、私のほうで文言を、文言というのは趣旨を変えないという意味で、もしありましたら事務局と都度ご相談させていただきますが、基本的には今日ご審議いただいた内容で提出するというので説明させていただきたいと思います。

では、今回は10連休の後だということですので、またぜひどうぞよろしく願いいたします。

それでは、本日はちょっと早いですけれども、これで終わらせて……。

○水津委員 すいません。1つだけ申し上げても。

○松田会長 どうぞ。

○水津委員 前回のときに、子どもの権利条例の追加のところでの動きが何かあったと言われた部分で、さらに先に進んでいるようなことはございますか。

○子ども家庭部長 前回、権利条例と、あと、オンブズパーソンに関しまして、陳情が可決されたというお話はさせていただいたと思っております。それを踏まえまして、議員さんのほうから権利条例に関して議員案が出されております。1月に1回審査がありまして、そこで決をとらないで継続という形になりました。明日も所管の厚生文教委員会で審議がされる予定で、議員さんから出された条例が可決されたとかいう状況ではない状況で、まだ審査中というところがありますので、とりあえず条例のほうは、その旨お伝えします。

あと、現状として、のびゆくこどもの現計画については、既に事業を進めておりますので、こちらのほうは進めさせていただきながら、現時点では、最終的に議員案というのは、我々がそこで発言をする場ではないので、そこはちょっと、今、見守っているという状況になります。それが採決とかいろいろあった状況になりましたら、またご紹介させていただきますけれども、今のところはまだ審議中という形になっております。

○水津委員 ありがとうございます。先日、健全育成で研修会があったときに子どもの権利についての貴重な講演会を聞かせていただいて、やっぱり子どもの権利条例というものがいかに大事かということを理解しましたし、このニーズ調査を見てもあまり浸透していないということがすごく残念に思っていますので、その辺のところもあわせて、子育て会議

の中でも少し議論というか、意見が出されるといいかなとポジティブに思っています。

お時間とってすいません。

○子ども家庭部長 今、ちょうど来年度の予算のほうで、来週から予算委員会があります。紙ベースについては、また次回のときに新年度の予算で新規項目が幾つかございます。ちょっとお時間をいただきたいです。

権利条例の関係については、10周年ということがありますので、秋口に記念式典、いわゆる児童館フェスティバルに合わせたような形でイベントを考えております。その際には権利条例に関する基調講演もやりたいなと思っておりますし、職員向けの権利条例に関する研修会の予算をとっております。

あと、この委員会ではなくて、別のところになるかと思うんですけども、子どもの実態調査というものもとらせていただいて、特にオンブズパーソンの設置のところは、そちらのほうで子どもさんがどういう形の思いを持っているかというのを調査させていただく機会をとったり、あと、お子さん向けの人権カードみたいなので、やはり推進が、この会議の場でもなかなか進んでいないということを言われておりましたので、来年度に向けましては、予算はとっているという状況が1つございます。

そのほかに、小金井市としてまだできていないのは、病児保育を秋口に目指して、今、進めさせていただいているという動きがございます。

そのほかですと、これはちょっと議員案から出された結果で可決されたものでございますけれども、今、義務教育就学の医療費助成というのは、1、2、3年生分につきましては所得制限がかけられています。それが先般の12月議会で、その所得制限の撤廃という議員案が通りましたものですので、この10月を目途に1、2、3年生のお子さんに対する所得制限撤廃という形で事務も進めております。そういったところも今、新しくやっておりますし、あと、きらりのほうの関係でございますけれども、巡回相談というのを、全部ではないんですけども、保育園とか幼稚園のほうも増やしていくという形の考え方も出てございます。

それと、あと教育の関係でいきますと、いじめの防止条例の制定に向けた準備も進めたいと考えていると伺っておりますし、あと、健康課のほうの観点でいきますと、今後おたふく風邪のワクチンの予防接種の助成も新規に考えているというふうにかががっております。そういったものも、本来なら今日準備しておけばというところはあったんですけども、予算等の動向で可決されたときに、要は、今入っているのびゆくに

関連するものは新年度でこうなっていますよという形でお示しさせていただく形にさせていただきます。

○水津委員　　すいません。ありがとうございました。

○松田会長　　ほか。どうぞ。

○北脇委員　　すいません。子どもの権利条例の周知で、今回のアンケートでも知らないという方がかなり多くてとても残念だなと思うんですが、随分前の会議のときに、どうやって周知していくかという話が出たと思うんですけども、あのときはちょっとアイデアが湧かなかったものであれだったんですが、後からいいかなと思ったのがあったので、意見として。

お祭りとかで、子どもの給食のクイズアンケートみたいなものがあると思うんですけども、このお花は何の野菜のお花でしょうとか。ああいう形で穴埋めのものとかいうふうにすると、子どもはクイズを当てたいという欲が出てくるので、そういうイベントのときに、クイズで景品を何かあげるとか、あとは、これはちょっと賛否あるんですが、中学生とかが薬物のポスターとかを描いていて、ポスターを描くに当たっては、趣旨を理解していないと描けないじゃないですか。でも、あれもどうやら夏休みの宿題で無理やり描かされていて嫌な思いをしているという話もちょっと聞くんですが、そういった形で子どものほうに楽しく、どうやって取り組んでいくかというのを考えていただけたらうれしいなと思いましたので。

以上です。

○松田会長　　ほか、この際ですので、もしございましたらいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、今日はこれで終わらせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

閉　　会